

観点・小問ごとの分析	対策の視点
<p>三、文脈にそって語句の意味がわかる            正答率1は71%、2は75%。            すそを「つめる」を「なおして」、「つくろう」を「つくって」とした誤答が目立った。</p>	<p>◦ 長すぎる→つめる、やぶれた→つくろって、のように「なにが」「どのように」書かれているのかを、言葉のつながりから考えることができるようにすることが大切であろう。</p>
<p>四、五、語句の組み立てがわかる            四、1.複合語「つかいこなす」(動詞+動詞)の正答率(83%)は、きわめて高いが、2.«あまぐつ»(名詞+名詞)の正答率(58%)は落ちこんでいる。誤答は、「つかい+こなす」、「あめ+ぐつ」、「あま+くつ」としたものが多く見うけられる。            五、の正答率は56%である。</p>	<p>◦ 複合語では、名詞+名詞がむずかしい。「あまぐつ」のように上の語が変化し、下の語が連濁する場合については、特に用例を多くして練習させたい。            また、活用語を終止形でとらえることにも慣れさせる指導を工夫するようにしたい。</p>
<p>観点③(語句を続む)について            観点の正答率(69%)と比べて、対語・語句の組み立ての正答率が低い。            語句の指導は、大事な基礎指導である。他の語との比較や言葉のつながりから類推したり、語の組み立てに目を向けたりしながら、語句の意味を正しくとらえ理解していくような指導をすすめたい。</p>	
観点・小問ごとの分析	対策の視点
<p>④ 語句を書く            一、文章の中で語句を正しく使う            1.«念をおしてなんどもたしかめた。」(50%)、4.«せきになをはたさないので心苦しい。」(59%)の正答率が他の小問に比べて低い。            誤答は、「念をおしてがんばった」、「元気がないので心苦しい」に集中しており、「念をおして」、「心苦しい」の意味がよく理解されていないための誤りと思われる。2は64%、3は88%である。</p>	<p>◦ 語句の辞書的な意味を理解させるだけでなく、短文作りなどによって用法まで指導することが大切である。この問題のような場合、語句そのものの意味を確実にとらえさせたいので、どのような語句と結びつくのかを考えさせ、適切な語句を選ぶようにすることが必要であると考えられる。</p>